

# 「明石旧船町の家」の保存・活用に向けて —戦後80年 地域と戦地を結ぶ記録と記憶の発見・発信—



登録有形文化財「旧安藤家住宅」前にて

# 古民家の保存活用  
# 地域の歴史  
# 戦争記憶の継承

## DATA

- **主な連携先・メンバー**  
明石市（市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当、市立文化博物館、人権推進課）／一般社団法人すまい研
- **活動地域**  
兵庫県明石市（主な活動場所：「明石旧船町の家」〈登録有形文化財「旧安藤家住宅」〉、明石市立文化博物館）
- **活動期間**  
2023年度～継続中
- **活動資金**  
地域連携活動に対する補助事業・一般社団法人すまい研

## 目的

戦後80年を迎え、戦争記憶の継承が大きな社会課題となるなかで、地域に残る戦時中の記録の整理作業を進め、その調査研究成果を地域に発信し、共有する。

## 連携に至る経緯

すまい研が主催する「まちづくりアカデミー」事業に参画。連携活動の拠点となる「旧安藤家住宅」から発見された大正一昭和期の膨大な文書群（安藤家文書）の取り扱いが課題となる。移管先となる明石市と連携して、整理・調査活動を行うこととなった。

## 活動内容

「旧安藤家住宅」は地域のランドマークともいえる豪壮な古民家で、2025年7月に国の登録有形文化財となった。この住宅に伝わったのが、膨大な数を持つ安藤家文書である。これまで3カ年の活動で約730件890点の撮影と目録作成を終え、戦時中の明石市からの回覧通知や、戦地からの軍事郵便が多数含まれることを明らかにした。現在、戦争記憶の継承が大きな社会課題となるなかで、同文書はそれを補完するものといえる。また、地域の貴重な歴史遺産でもあることから、その研究成果は広く共有することが望まれる。それゆえ、本事業では

研究成果の還元にも力をいれてきた。

戦後80年を迎えた2025年度は、明石市文化・スポーツ室歴史文化財担当及び同市人権推進課と連携して、戦時中の町内回覧に関するパネル展示を実施したほか、学生たちと新たな展示プログラム「戦後80年の記憶 戦地と故郷を結んだ軍事郵便」を立ち上げ、明石市立文化博物館や旧安藤家住宅でのすまい研主催イベントにおいて展示を行った。特に、後者のイベントでは、来場者に対して学生達自身が展示解説を行うなど、市民との交流も積極的に図った。

専門家の指導を受けながら  
展示作業中



来場者に展示内容を  
解説



明石市立文化博物館にて  
安藤家文書の調査中

## 活動の成果

- ≫ 未整理だった文書群の整理が進み、歴史資料として利用できるようになってきた。
- ≫ 連携イベントでの展示や研究報告を積み重ねてきたことで、市民が地域の歴史にふれる機会を提供できた。
- ≫ 連携する組織の多様な職種の方々と他大学の学生たちと、本学学生との貴重な交流機会となった。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 整理作業は進んだが、文書群全体から見ればまだ一部であり、今後も継続した整理作業が必要である。
- ≫ 連携イベントの来場者も回を重ねるごとに増加しており、引き続き市民の関心を高める工夫をしていく。
- ≫ 調査研究成果の共有を図るために、それらのデータの公開方法についても検討していきたい。

## 連携先からの一言

一つの史料群の整理から調査・分析・展示まで一連の作業を協同して行うことで明らかにできた地域の歴史を、大勢の人に知ってもらえる、そんな素敵な時間を共有させていただき感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。

（明石市市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当 義根 益美氏）

文学部 教授 高久 智広 Takaku Tomohiro



専門は文化遺産学。前職は神戸市立博物館の学芸員で、近年は博物館や文化財保護の現場での経験をもとに、歴史・文化を活かした地域連携活動に学生とともに取り組んでいる。

